

教科別授業改善プラン（算数科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器等を活用して視覚的に理解させたり、ドリル教材を繰り返し取り組ませたりすることで計算技能を高めることができた。思考力を必要とする問題では、児童の実態に応じて手立てを講じながら考えさせることで、主体的に学習に取り組める児童が増えた。
- ・継続的に、ステップアップ学習や東京ベーシック・ドリルを活用したり、算数力アップ教室や土曜補習教室を活用したりすることで、計算技能の向上や知識の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・自分の考えをノートに書ける児童と答えがでるまで待つてしまう児童の二極化の傾向が見られる。また、粘り強く考えようとしたり、多様な解決方法を考えようとしたり、筋道立てて順序よく考える児童が少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(領域別、観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」「

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	領域別 ・数と計算≡ ・図形≡ ・変化と関係≡・データの活用≡ 観点別 ・知識・技能≡ ・思考・判断・表現≡ ・主体的に学習に取り組む態度≡		
第5学年	領域別 ・数と計算△ ・図形≡ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能≡ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△	領域別 ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)	
第6学年	領域別 ・数と計算≡ ・図形≡ ・変化と関係≡・データの活用≡ 観点別 ・知識・技能≡ ・思考・判断・表現≡ ・主体的に学習に取り組む態度≡	領域別 ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	領域別 ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能 △ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度 △ (第4学年時)

(2)分析

4 年	正答率は、領域別、観点別とともに目標値と同等である。 ○全体の正答率が目標値より上回っている児童は、全体の8割近くになる。 ●長さの単位換算の問題では、目標値を9ポイント下回った。単位換算の理解が不十分である。 ●道のりを求めることができるが、どちらかの道のりの合計が短いかを説明する問題の正答率が、目標値を12ポイント下回った。説明する力が不十分である。
5 年	正答率は、領域別、観点別ともにすべて目標値を上回った。 ○整数・小数・分数の数のしくみについての正答率は高く、数の概念については身に付いている。また、簡単な場合の割合の問題は、目標値を約10ポイント上回った。 ●角の大きさの見当をつける問題の正答率は目標値を10ポイント以上下回った。分度器の目盛りを読む技能とともに、90度や180度より大きい小さいかの見当をつける力が不十分である。 ●ひし形の作図をする問題の正答率が目標値を10ポイント程下回った。図形の性質の理解も目標値とほぼ変わらないため、図形の作図が不十分である。
6 年	正答率は、領域別、観点別とともに目標値と同等である。 ○三角柱の構成や立方体や複合立体の体積を求める問題の正答率は高く、立体の構成を理解し、体積の求め方も身に付いている。円グラフを正しく読むことができる。 ●与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しい理由を説明する問題の正答率が目標値を9ポイント程下回った。また、無答率も高いことから、説明をする力が不十分である。 ●「多角形と円・合同」の問題で、図に示された内角の和の求め方を表す式を選ぶ問題の正答率は目標値を8ポイント程上回った。しかし、説明をする問題に対しては正答率が目標値を10ポイント以上下回った。

3 重点課題

1 年	・10以内のたし算、ひき算の計算を速く正しくすること。 ・10のまとまりを意識して、繰り上がりや繰り下がり計算をすること。 ・たし算、ひき算の違いを理解して立式すること。 ・数的な感覚を身に付けること。
2 年	・繰り上がりや繰り下がりのある計算を確実にできるようになること。 ・かけ算について理解し、九九を確実に覚えること。 ・ものさしを適切に使い、長さを測ったり直線を引いたりすること。
3 年	・四則計算を速く正しくすること。 ・時刻や時間を求めること。 ・文章問題や思考力を必要とする問題を自力で解決し、自分の考えを説明すること。
4 年	・重さや長さなど単位の理解を定着させ、単位換算ができるようになること。 ・mm、cm、m、kmやmg、g、kgなどの関係性を理解すること。 ・量感を身に付けられるようにすること。
5 年	・角度の測定の技能が十分に身に付いていないこと。 ・文章問題を正しく読み取り、式を立てたり、図に表したりすること。
6 年	・問題を正しく理解し、立式を行うこと。 ・与えられたデータの中から、正確に情報を読み取ること。 ・日常場面でも数学的に考えることができるようにすること。

4 授業改善策

1 年	・朝学習の時間を活用して、繰り返し計算練習に取り組み、計算力を高める。 ・ブロックを操作したり、図や計算の仕方をノートに書いたりする活動を設定する。その際、10のまとまりで考えることの良さに気付かせ、活用できるようにさせる。 ・立式場面で、どうしてその式になったか根拠を説明し合い、理解を確かなものにさせる。 ・具体物を使って、実際に比べたり、測ったりする活動を多く取り入れ、数や量の感覚が身に付けさせる。
2 年	・計算問題を朝学習の課題として取り入れ、継続して取り組ませる。 ・家庭学習カードを使用し、家庭と連携して、九九を覚えさせる。 ・「長さを測る」、「水のかさを量る」など、体験的な学習を通して量感を養わせる。 ・日常的にものさしを使って直線を引いたり、長さを測ったりさせる。
3 年	・かけ算やわり算などの単元や朝学習の時間に、計算問題を多く行う。 ・時刻や時間を求める問題に多く触れ、単元が終わっても基礎基本等の時間を使い、定期的に復習する。 ・文章問題や思考力を必要とする問題を児童自身で解くことができるよう指導するとともに、問題に多く触れさせる。 ・自分の考えをノートやタブレット端末を用いて表現し、発表する機会を設ける。
4 年	・実際に長さや重さを測る学習を十分にさせる。 ・単位を学習することが少なく、忘れてしまうことがあるため、朝学習などで復習を行う。
5 年	・全体指導では、I C T機器等を活用して、角度の測定や作図の方法を視覚的に理解させる。 ・文章題を解決する際に、わかっていることや聞かれていることに線を引き、演算決定をさせる。また、計算の仕方などで、数直線、図、言葉などいろいろな方法を用いて考えさせたり、説明させたりする活動を多く取り入れる。
6 年	・問題の意味を考えさせる活動の時間を確保し、数直線図などを用いて正しく立式することを繰り返し行う。 ・算数だけでなく他教科でもグラフやデータから情報を読み取る学習を重点的に行う。 ・日常場面を想定した問題を提示することで、学習したことが生活に生かせることや、身の回りには算数を使う場面がたくさんあるという実感をもたせるようにする。
全学年共通	・習熟度別指導を行い、個に応じた指導を行う。またその際、必要に応じて授業のはじめに既習事項を復習する時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。 ・I C T機器等を活用して視覚的に理解させたり、数学的活動を取り入れたりする。 ・朝学習の時間などを活用し、ドリルパークなどで計算力を高める。また、ステップアップ学習や東京ベーシックドリル等の学習を繰り返し行い、計算力などを確実にする。 ・平日の放課後の算数力UP教室や土曜補習教室を活用し、不十分な学習の定着を図る。